



もっと、キミのことを知りたいんだ

トンボの幼虫ヤゴも魚もカエルも大好き！ 水辺の生き物 博士 かわむら ゆう 河村 優さん

小学5年生の河村 優さんは、トンボの幼虫ヤゴに夢中。川で、山でヤゴを捕まえて、飼育して、観察して、調査して、研究しています。「僕の滋賀県ヤゴ記録とヤゴリンピック！」と題したヤゴの自由研究発表は、株式会社キョーリン主催の「メダカと水辺の生き物博士コンテスト 2022」で最優秀賞を受賞しました。



自由研究を説明するお母さんと兄妹



妹の楓さんが作った環境新聞

でも迷いはない「優を尊敬しています」と話していました。

家族で支え、影響しあって 将来は水と生き物の研究者に

優さんの「水辺の生き物大好きは、家族と影響しあっているのかもしれない。」

優さんはお父さんと一緒に時々、釣りに出かけます。水の生き物好きは当然海でも発揮されるので、三重県

地域が「好き」を育ててくれた 中学生から高齢者まで友人に

お母さんによると、優さんが覚えていないのは、優を尊敬して「す」と話していました。

家族で支え、影響しあって 将来は水と生き物の研究者に

優さんの「水辺の生き物大好きは、家族と影響しあっているのかもしれない。」

優さんはお父さんと一緒に時々、釣りに出かけます。水の生き物好きは当然海でも発揮されるので、三重県

水生昆虫のヤゴを徹底研究 夢は県内全種類コンプリート

河村 優さん(播磨田町)は、とにかく水の生き物が大好き。魚、爬虫類、両生類、水生昆虫など、なんでもござれ。学校から帰ると、毎日のように近所の川に入って、魚や水生昆虫などを捕まえています。

今はトンボの幼虫ヤゴに夢中で、滋賀県中の川でヤゴを探して捕まえ、家に持ち帰って飼育して観察・調査・研究をしています。トンボは環境のバロメーターといわれ、滋賀県には101種類が生息しているといわれますが、優さんは現在28種類のヤゴを発見。夢は101種類をコンプリートすることだそうです。

優さんが最優秀賞を受賞した「僕の滋賀県ヤゴ記録とヤゴリンピック」と題した自由研究発表は、お尻のジェット噴射などヤゴの生態を生かした競技を考え、オリンピックになぞらえて競わせながら種類ごとの特徴や生息環境について仮説を立てる内容で、詳細な絵や記録などで解

伊勢志摩市の釣り船の船頭さんとの間では「スーパード小学生」と呼ばれてちよつと有名なのだとか。小さい時から優さんに付いて環境イベントやごみ拾い、海や川に行っていたので、妹の楓さんもすっかり環境博士に成長しています。生き物よりも環境保全やごみ問題に興味があるようで、手作りの壁新聞が環境新聞コンクールに入賞し、10月末のもりやまエコフェスタ会場で表彰されました(5頁)。

11月5日に行われた環境イベントでは、家族4人が一緒に金森湧水公園で生き物探しをしていました。みんなで川の中をガサガサ、ガサガサ。捕まえた生き物はバケツに。

そこでは、お母さん「ヒルがいっぱいいた」優さん「これは三角の顔があるからヒルじゃないよ」お父さん「この辺は水温が高いね」など、家族そろって環境と生き物の会話が盛り上がっていました(ちなみに、取材者はまるで分かりませんでした)。

滋賀県のヤゴをコンプリートするほかに、優さんには大きな夢があります。それは、将来、水と生き物に関する研究者になることです。「夢をかなえるために、これからも「好き」を一直線」で大好きな生き物たちとふれあって、たくさんのお見聞をしていきたい」と話していました。

ていなくらい幼い頃から「生き物博士」の片りんがあったそう。幼稚園の頃にはお弁当袋から生きたカエルが出てきたり、ほかの友達のように遊具で遊ばず、ひたすら川や森に入って生き物を探していたりして、「お友達と上手に遊べないのでは」となどと心配していた時期もあったと言います。

しかし、守山の豊かな自然が助けられました。認定NPO法人びわこ豊稜の郷が主催する環境イベントで「ごみ拾いをしたり、生き物探しをしたり、下之郷史跡公園で弥生時代の遺跡を活用しながら学ぶ小学生グループ・Girlsに参加したり、学校外にも居場所を作って大好きな生き物とふれあい、そこでたくさんの人たちと出会いました。今では県立琵琶湖博物館の学芸員や三重大学の教授・立命館守山の先生など、小中学生から68歳のお年寄りまで、同じ趣味の友達、生き物や環境の専門家にも友人がいるそうです。

お母さんは「人に合わせるのが苦手なのでは」と心配もありましたが、だからこそ、自分の好きなことで自由に伸びることができた。地域に育ててもらったと感謝しています。今でも靴のまま川に入ったりするし、生き物を見つけないとスマホは必要だし、心配はありますが「悩みはあ